

マーティン・ヤコブセン

MARTIN JACOBSEN

デンマークで生まれ、現在はパリで活動するサックス奏者のマーティン・ヤコブセンが、同じくパリ在住のピアニスト村山浩と共に来日し国内ツアーを行なう。初の日本ツアーを前に、現在の心境を訊いた。

取材：浅石雅道



からのプレイ面での影響はありますか？

MJ: ないと言ったら嘘になる。ただ、私の場合は彼の50年代初期……それこそ彼がデュー・ガレスピー (tp) やジョニー・ホッジス (as) と演奏していた頃のプレイにかなり影響されたと思っている。その頃の彼のソロは、コピーもしやすかったしね (笑)。

—最初に手にした楽器は、どのようなものでしたか？

MJ: 最初に手にした楽器はレンタルだったな。3年ほどレンタルのサックスで練習して、その後アルバイトをしてなんとか自分の楽器を買うことができたんだ。何年か前になるが、いろいろなサックス・プレイヤーと話をしていると、やはりヴィンテージのセルマーが良いということで、私も1956年製のマークVIをようやく手に入れて、今もそれを使っている。マウスピースはバンドーレンVI6のハード・ラバー、リードもバンドーレンのZZを使っている。このリード、表記は“ZZ”になっているけど、こっちはみんな“ジャズ”

と呼んでいるんだよ。

—なるほど。さて、聞くところによると、あなたのプレイは、ほとんど独学で習得されたそうですね？

MJ: レッスンも少し受けたけど、ここでは音の出し方、リードやマウ

サックスが
最も表現力に
富んだ楽器の
ように思えた

先生にはつかず、レコードからいろいろなことを学んだ

—19歳でサックスを手にしたという話を聞きましたが、それはミュージシャンとしてはかなり遅めのスタートですよね。その前には何か他の楽器を手にしていたのでしょうか？

マーティン・ヤコブセン (以下 **MJ**) : その前は、クラシック・ピアノを少しやっていたぐらいかな。だから、サックスを始めた時にはなにもわからない状態で……。

—では、なぜサックスを始めようと思ったのですか？

MJ: 私の従兄がマイルス・デイヴィス (tp) やウェザー・リポート、それに当時新人だったウィントン・マーサリス (tp) やブランフォード・マーサリス (ts) などのレコードを持っていて、私にジャズというものを紹介してくれた。それがジャズに触れた初めての経験だ。

80年代にはまだコペンハーゲンに有名なジャズ・クラブ“カフェ・モンマルトル”もあったから、そこに通って実際に

プレイヤーの演奏を聴くことができた。ウェイン・ショーター (ts) が自分のグループで来た時など、真っ先に聴きにいったよ。でも、始めは何が良くて何がすごくて……なんてまるでわからないから、ただチケットを買ってクラブに入っていった。そうこうしているうちに、なかでもサックスが人間の声が一番近く、最も表現力に富んだ楽器のように思えたんだ。だから、誰かのサックス・プレイに影響されて楽器を始めたわけではないんだ。—テナー・プレイヤーとして、ジョン・コルトレーンをはじめとするジャズ・ジャイアンツ

スペースの選び方など、本当に基礎的なことを教えてもらったただけだから、独学といった方が適当だね。そして、わからないことが出てくればその都度レッスンに行く、という生活が2~3年続いたかな。本格的な先生はレコードだった。どのようにすればイメージと近い音色が出せるか、レコードを聴いていろいろ試したりしたものだ。

—独学の良い所はどんなところだったと思われますか？

MJ: 別に、僕のやり方をみんなに真似てほしいというわけではないんだよ (笑)。先生

についてレッスンを受ける場合に最悪なのが、それぞれ最悪の先生になってしまうことだ。悪い先生についてしまったら、後々その生徒は時間を無駄にしたことを知ることになる。間違っただけを一度身につけたら、そこから抜け出すのはとても大変なことだからね。もちろん、独学にしても同じような間違いをすることがあるから、気をつけたいといけな。ただ、自由に物を考えられるので、間違いから抜け出しやすくもある。私がよくやったことは、練習を録音し、それを聴き返すことによって、自分を批判すること。またレコードと聴き比べることによって、良い点悪い点を見つけ出し出すこともした。それに、他人と一緒にプレイすることによって自分の知らないことを教えてもらうこと、これは有意義だったよ。それぞれオールド・ファッションなやり方、練習法でもあるけどね。

ジャズに対する敬意の強い日本でツアーができることを嬉しく思う

—あなたは現在、パリに住んで活動されています。コペンハーゲンを出られた理由は何だったのでしょうか？ また、アメリカに進出しようとは考えなかったのですか？

MJ: 実はコペンハーゲンに住んでいるアメリカ人サクソフーン・プレイヤーのボブ・ロックウェルに、ミュージシャンとして生計を立てていくにはどうすべきか、ということを知ることがある。彼の意見はコペンハーゲンは狭すぎる、ニューヨークかパリに行きなさい、ということだった。ボブは長年コペンハーゲンに住み、多くのプレイヤーから尊敬されているミュージシャンで、僕も彼に演奏を聴いてもらいコメントをもらうことがどれだけ嬉しいことだったか。その彼のアドバイスを受けて、海外に出ることにしたというわけさ。もし彼が「月に行きなさい」と言えば、その通りにしたかもしれない(笑)。

—パリで活動をされて、いろいろな人とプレイする機会を得ているようですが、ここ最近ではデイヴィッド・サンボーン(as)のツアーにも同行しているんですね。

MJ: 彼の発売した『ヒア・アンド・ゴーン』というアルバムにバンドのホーン・セクションの一員として参加したことがきっかけで、2008年から翌年にかけてのツアーに同行する機会を得た。

—サンボーンは、あなたが指向してきたコルトレーンなどのプレイヤーとはまた違った

流れの音楽のようにも思いますが。

MJ: 確かにそうかもしれないけど、サンボーンが影響を受けたプレイヤーたちも、元をたざせばマイルスやコルトレーンと同じような人たちだ。だから、違和感のようなものはそれほど感じない。もちろん、私自身サンボーンやマイケル・ブレッカーといったプレイヤーをよく聴いていたから、その点でも違和感はあまり感じないし、一緒に演奏して得られるもののほうが大きいと思っているよ。

—さて、今回4月にあなたと一緒に来日するピアニストの村山浩さんとは、どこで出会われたのですか？

MJ: 彼と最初にプレイする機会を得たのは……確か3~4年前だったと思う。場所はパリだ。初めて彼のプレイを聴いた時、こんなにすごいプレイヤーがパリという街を選択して移ってきてくれて本当に良かったな、と感じたよ。以来、機会があるごとに一緒にプレイしているけれど、実は、レギュラー・バンドとしてはまだ動いていないのだけど、これからも演奏を重ねていきたいと思っているよ。今回日本でツアーできるのも、彼がいろいろ骨を折ってくれたからなんだ。凄く感謝している。

—2003年だったと思いますが、あなたはスティーブル・チェイスから自身のクアルテットによるアルバム『カレント・ステイト』を発表していますが、現在は廃盤となっています。これは4月の日本ツアーの時に、手に入れることができるのでしょうか？

MJ: レコード・レーベルに聞いたら、日本でも買えるようにするという話だったので、ツアーの時は確実に手に入ると思う。ぜひ聴いてほしい。

—それは良かったです。では最後に、日本の初ツアーにむけて、何かメッセージをいただけますか？

MJ: とにかく期待で胸一杯なんだ。誰かから聞いたことがあるのだが、ジョン・コルトレーンが日本に初めてコンサートに行った時、飛行機を降りたらそこには赤い絨毯が引かれていたらしい。皆どこかの国の大統領でも来日するのかと思っていたら、それがコルトレーンのためのものだったという。それほど、日本人のジャズに対する敬意、姿勢は強いものなんだね。そんな国に行けるなんて、本当に夢のようだし、行くからには皆に納得してもらえ素晴らしい演奏をしたい。もちろん赤絨毯は昔の話としても、今から楽しみにしているよ。 ■



マーティン・ヤコブセン ●プロフィール
デンマーク、コペンハーゲン生まれ。19歳の時、初めてサクソフーンに触れたことからジャズへの情熱に火がつき、ミュージシャンになることを決意。独学で学び、90年代に入り、コペンハーゲンのジャズ・シーンで次第に頭角を表わし始めた。1995年には活動の拠点をパリへと移し、多くのミュージシャンたちと共演。2003年にスティーブル・チェイスより初のリーダー作『カレント・ステイト』をリリースした。現在は、ヨーロッパを中心に、世界中で演奏活動を展開している。
<http://www.martinjacobsen.com>



マーティンが愛用する、ヴィンテージ・セルマーのマークVIと、バンドレイン・リードの"ZZ"。マウスピースもバンドレインV16のハード・ラバーを使用。



【マルタン参加作】

『パルス』

フランチェスコ・ベネッタ

four (海外盤) CO405

●収録曲● ①ヘッドウェイ ②レインチェック ③エヴリシング・アイ・ラヴ

④オン・ア・クリア・デイ ⑤テーマ・フォー・アーニー ⑥アイ・レット・ア・

ソング・ゴー・アウト・オブ・マイ・ハート ⑦イージー・トゥ・ラヴ ⑧クレ

イジオリジー ⑨ブルーゼット

●パーソネル● フランチェスコ・ベネッタ (ds)、マーティン・ヤコブセン (ts)、フランチェスコ・バルミテッサ (g)、ピエトロ・チャンカリーニ (b)

マーティン・ヤコブセン・クアルテット日本ツアー

メンバー: マーティン・ヤコブセン (ts)、村山浩 (p)、マーティン・ゼンカー (b)、吉岡大輔 (ds)、正清泉 (ds/20日)、加納樹麻 (ds/23日) 4月16日(土) 東京・新宿「サムデイ」、17日(日) 群馬・桐生「ヴィレッジ」、18日(月) 横浜「KAMOME」、19日(火) 神奈川・相模大野「Alma en Musique」、20日(水) 千葉・柏「ナーティズ」、21日(木) 東京・赤坂「B-flat」、22日(金) 埼玉・浦和「ドルチェ」、22日(金) 東京・高田馬場「カフェ・コトックラブ」、23日(土) 東京・御茶の水「NARU」、24日(日) 東京・学芸大学「珈琲美学」 問い合わせは各店まで。